

1. 調査報告概要表

作成日 2007年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3072200276
法人名	社会福祉法人 上秋津福祉会
事業所名	グループホームあきつ
所在地	和歌山県田辺市上秋津2310-178 (電 話) 0739-35-1010

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天満橋2丁目北1番21号		
訪問調査日	平成19年9月11日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(平成19年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計		9 人
職員数	13 人	常勤 4 人, 非常勤 9 人,		常勤換算 9.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(7月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低 71 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あきつの診療所 矢田歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然が多く残る地区に立地し、老健をはじめとする施設を運営している社会福祉法人が母体となっているグループホームです。ハード面では、木造のロジック風のつくりの中に、和風の雰囲気を感じさせる構造になっており、中でも、リビングの天井は高く開放感があり、空気もこもることなく、さわやかな風が通る空間になっています。ホームの中では犬が飼育され、家族のようにかわいがられており、入居者の癒しにもなっています。入居者は、集団生活をおくる上でそれぞれができることを役割として担っておられ、大きな家族として仲良くゆったりと生き生きと生活されています。職員の入居者に対する想いも強く、家族の一員として、入居者に寄り添いながらサポートされ、入居者からも学ぼうとする姿勢でいっしょに生活を送っておられます。隣接する老健などの協力もあり、安心して過ごせるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部14) 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。困難な場合は、本人本位に検討しています。センター方式を活用しながら、一人ひとりの思いや意向を把握されており、困難事例なども常に職員同士話し合いをおこない、対応方法など確認しています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4) 職員全員で取組んでおられ、改善項目については優先順位をつけ計画的に取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議では、利用者、家族、地域代表、包括支援センターの方が参加されており現状報告だけでなく、参加者から様々な意見を収集しています。また、地域のイベントなどの情報なども提供していただいています。今後さらに地域との連動の効果をあげるために、議事録の報告だけでなく、行政の担当者にも出席していただけるように働きかけをされてはいかがでしょうか。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8) 家族に気軽にお話していただけるように気を配りながら、ホームに来られた際や電話にて、コミュニケーションを積極的に取るようにしています。また、要望については、検討し、改善されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3) 職員を通じて地域の情報などを収集し、様々なイベントに参加できるように検討されています。自治会主催の夏祭りや隣接の老健施設のイベントなどに参加されています。地元の方や、近所の子供たちにも散歩や声かけなどを通じて交流を深めています。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念が掲げられており、「地域」との関わりについても盛り込まれている。	○	理念を掲示するだけでなく、パンフレットやあきつの便りなどに記載し、地域の方にも知っていただくことも進められてはいかがでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は申し送り時や毎月の会議にて理念の実践に向けて話をしている。また、日々の実例を通して理念に基づいた話を職員にしているため、文言を理解するのではなく、実践を通じて職員も理解されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の夏祭りや隣接の老健施設のイベントなどに参加されている。地元の方や、近所の子供たちにも散歩や声かけなどを通じて交流を深めている	○	職員を通じて自治会などの情報を得ているが、直接「自治会」や「老人会」に加入することで、より一層情報交換や、行事参加ができるのではないのでしょうか。また、ホーム独自のイベントをたくさん実施することでさらにホームを理解していただくことにつながるのではないのでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ご家族に対してもサービス評価について理解していただけるように説明されている。改善項目については「改善計画シート」を作成され優先順位をつけ計画的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、地域と家族に向け情報を発信され、意見交換されている。	○	行政との連携も常にとられているようですが、運営推進会議は議事録だけを行政に提出するのではなく、その雰囲気や家族、地域の意見を直接伝える重要な機会です。できるだけ、行政の担当者にも出席していただけるように依頼されてはいかがでしょうか。

グループホームあきつの

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者により市と連絡を密にとり、相談しやすい関係づくりがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「グループホームあきつの便り」を作成され、全体の行事の連絡、職員の紹介、個々の健康状態や生活の様子などを報告している。また、電話にて暮らしぶりや健康状態について報告をしている。家族が来所された際は、個々の状態などを説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはざっくばらんにお話していただけるように気を配りながら面談している。また、ホームに意見箱を設置し気軽に相談出来る仕組みが取られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人での採用で配置されている。法人の職員が日々、グループホームの入居者に声かけしたり、イベントなどでも一緒になるため、法人全体としてなじみの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修が月1回、ホームでの研修も会議の中で実例を通じて研修している。また、外部の研修にも参加し、受講後は、伝達研修も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での会議や研修、相互実習に参加している。相互訪問を実施することで、いろいろな角度から、業務を再認識したり、問題提起ができるため、有効に活用されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とも相談しながら、同法人の老健施設のショートステイなども活用したり、ホームに日中だけお越しいただくなど、少しずつ、職員とも人間関係を構築し、慣れてもらい、利用していただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者、職員、家族など互いに尊重しあい、家族のような人間関係を形成している。日々の生活の中では、職員も利用者から色々な事を教わりながら、関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、一人ひとりの思いや意向を把握している。困難事例なども常に職員同士話し合いをおこない、対応方法などを確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、入居者ひとりひとりの状況を把握し、希望などを常に引き出すように心がけながら、日々の話し合いや会議などで、意見を発表し、それらの情報をとりいれた介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況を常に把握しながら、定期的な見直しだけでなく、変化に応じて新たな介護計画を作成している。		

グループホームあきつの

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のかかりつけ医に通院される場合の送迎なども支援されている。	○	個別外出などの機会をもっと増やして行きたいとの意向ですが、人員配置の関係など難しいこともあるが、今後積極的に取り組まれる事が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医との連携が図られている。また、ホームに入所後、かかりつけ医が変更された方もいるが、新たな医師とも人間関係が構築できている。隣接の老健施設の医学療法士や、看護師、訪看看護師などとも連携がとれ、24時間安心したサポートを受けることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては、現時点ではターミナルケアの経験は無いが、入居時や入所後も本人、家族、主治医との話し合いを通じた方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームとしては、家族的な雰囲気を保ちながら、さりげない介助や礼儀をわきまえ、行動されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や意向を把握しながらペースを大切に支援がなされている。		

グループホームあきつの

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者といっしょに献立作りから、買い物、食事づくり、配膳、片付けなどをおこなっている。入居者の希望を聞きながら、食事を提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望にそった入浴を支援している。毎日の入浴や夜間入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に応じた役割を行ってもらうように個別に働きかけている。生き生きしながら料理や掃除をされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅で生活するのと同様に、季節によるが、毎日散歩や買い物、畑仕事に外出されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老健施設と合同訓練をしたり、グループホーム独自でも実施している。		

グループホームあきつの

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望を聞き、好きなものだけでなく、栄養バランスを考慮しながら食事作りを行っている。また、定期的に併設施設の管理栄養士に専門的な観点から栄養バランスをチェックしてもらっている。食事、水分の摂取量は一人ひとりの日々の体調にあわせ、調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節感ある飾り付けされている。居間は、天井も高く、開放的で非常に広く感じる。台所もオープンキッチンで、入居者との共同作業もできる。全体的に明るく家庭的な雰囲気がある。	○	ホームの周りは自然がたくさんあり、季節を感じることはできるが、ホーム内にも、草花を飾ったり、入居者とともに季節を感じる作品などを作って飾ったりすることで、より一層ホームの良さが出るのはないでしょうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた馴染みのタンスなどが持ち込まれており、手作りの作品や写真が飾られ、入居者にとって居心地の良い空間作りがされている。		